

愛知連盟 第3次中期計画(案)

持続可能な組織運営への挑戦！

(2026年度～2028年度)



2026年6月28日

一般社団法人 日本ボーイスカウト愛知連盟

I. 策定の経緯

- 中期計画は、単年度では解決できない課題を明らかにし、3年間という期間の中でどのように解決していくかを「見える化」し、継続して取り組むために作成します。
- 愛知連盟では、2019年度以降、3年ごとの『愛知連盟中期計画』を2回策定し、これに基づいて各年度の施策を計画、推進してきました。
- 今般、2026年度を初年度とする第3次中期計画の策定にあたり、各地区、各部門、各委員会、及び4地域の様々な年代・性別・役務の加盟員から、第2次中期計画の評価・第3次中期計画への要望のみならず、各現場の現状の課題等の意見徴集を行い、第3次中期計画策定の基礎資料としました。
- 第3次中期計画は、過去2回の中期計画の経験・評価・反省を踏まえ、広範な理想（あるべき姿）・理念としての「5つの喜び」を堅持しつつも、課題に取り組む施策は喫緊の課題である「持続可能な組織運営」を実現すべく、重点目標を絞り込み、県連盟・地区・団の連携を前提に、優先順位・費用対効果も考慮し策定しました。

第1次	2019～2021 年度	輝け!! 愛知のスカウトたち!
第2次	2022～2025 年度	もっと輝け! 愛知の希望(ほし) ～主人公はキミだ!～
～わかりやすく、課題を明確にしたテーマへ～		
第3次	2026～2028 年度	持続可能な組織運営への挑戦!

Ⅱ. 基本理念

第1次、第2次と目標としてきた『5つの喜び』を基本理念として継承し、その実現を目指し、活動します。

① スカウトの喜び

ボーイスカウト活動を楽しみながら、自分の成長と成果を実感できる喜び。

② 保護者の喜び

子どもがスカウト活動を楽しみながら成長していく喜び。

③ 指導者の喜び

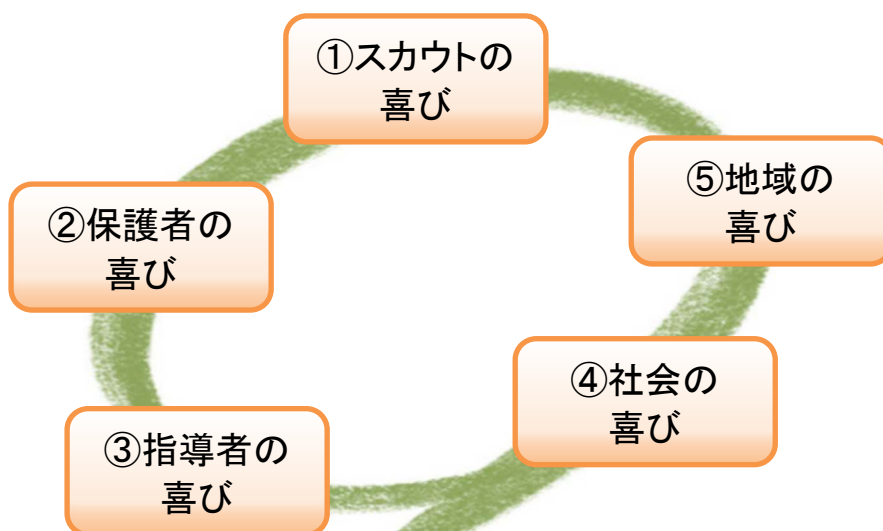
スカウト教育法を用いてスカウトを成長させることができる喜び。

④ 社会の喜び

自立した社会人として、職場や家庭においても活躍できる人材を育ててもらえる喜び。

⑤ 地域の喜び

地域社会において、野外活動を通して培った技能を、各種奉仕、減災・防災に即応出来る人材を育ててもらえる喜び。



Ⅲ. 方針

1. スカウトの「自発活動」と「5つの喜び」を追求し、その実現に向け、県連盟・地区・団が連携して3本柱（「班制教育」「進歩制度」「野外活動」）に沿った活動を展開します。
2. 世界スカウト機構・日本連盟の方針（中長期計画）を踏まえ、ブランド力を高め、社会から高い評価を獲得し、関係性人口の増大と持続可能な組織運営を行います。



Ⅳ. 重点目標

本当に解決しなければならない課題に集中的に取り組むため、日常的に取り組む案件は敢えて記載を省き、「人的資源・物資・財務資源」を集中すべき案件を重点目標として定めます。

1. スカウトの成長を支える活動の推進

スカウト活動の原点である「自発活動」を追求し、活動の経緯と結果を重視した進歩評価を実現します。

2. 魅力ある指導者の育成と確保

指導者のリクルート強化とプログラム企画力アップに取り組み、一人ひとりの負荷の軽減を図ることで、持続可能な組織運営を実現します。

3. 地域社会との連携強化と財政基盤の確立

組織の知名度と信頼度を向上させ、「人的資源・物資・財務資源」の土台を固めます。

V. 施策の方向性

別紙の各施策は、次の方向性をもって、重点目標を達成すべく、策定します。

1. スカウトの成長を支える活動の推進

- ①スカウトの「自発活動」を県連盟・地区・団、共通の「活動の軸」として徹底し、団における自発性の養成強化に向けた施策の展開と関連する部門間の連携を図ります。
- ②特にボーイスカウト部門において、活動の3本柱（「班制教育」「進歩制度」「野外活動」）に沿った活動に向けた課題を解決します。
- ③菊・富士章の認定において、活動の経緯と結果を重視した進歩評価を行い、真に知識と行動力を持ち合わせたスカウトを育てると共に、認定方法の改善について日本連盟へ提言します。
- ④県連盟・地区・団（隊）、各場面における意思決定への青年の参画を推進します。

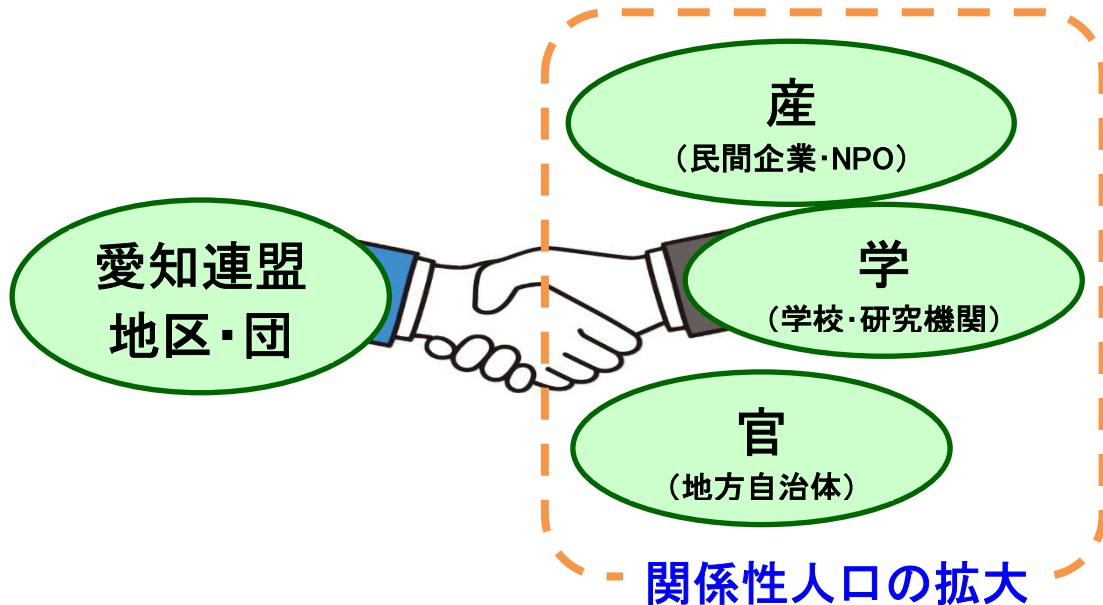
2. 魅力ある指導者の育成と確保

- ①AIS方針の地区・団への浸透を図り、定型訓練修了のみの評価の転換を図り、指導者・運営者のやりがいや達成感を高めます。
- ②タスクチームの編成や定例の部門別研究集会・ラウンドテーブルの活性化により課題解決への早期着手と柔軟な取り組みを行い、既存組織等の枠を超えた人材活用・多様な人材交流を創出します。
- ③20～30歳代を対象とした若手指導者のコミュニティの常設を検討し、地区・団の枠を超えた交流・連携により“共に進む仲間づくり”を促進し、後継者育成につなげます。
- ④指導者・運営者の業務のDX化を推進し、負担軽減・効率化、仕事・プライベートとの両立を図り、隊指導者が集会に参加しやすく、スカウトと対面する時間の強化を目指します。



3. 地域社会との連携強化と財政基盤の確立

- ①産(民間企業・NPO)・学(学校・研究機関)・官(地方自治体)の関連団体との連携を強化し、スカウト運動の関係性人口の増大を図り、本運動のブランド力を高め、「社会・地域の喜び」の実現を図ります。
- ②県連盟のみならず、地区・団の財政改善に向け、財政情報の共有と資金獲得への新手法を研究・実施・検証します。



【関係性人口とは・・・】

ボランティア(指導者)としてどっぷり浸かるのはハードルが高くても、「サポーター」や「応援団」としての関わり方は、運動への支援と、運動の推進において今後ますます重要になります。従来のボーイスカウトは「正会員(スカウト・指導者)」が中心でしたが、関係性人口とはその外側にいる「ゆるやかな協力者」を指します。例えば、

- ・地域住民: 集会場の提供、広場の提供、キャンプ場の整備補助、資材提供などの支援者。
- ・OB・OG・保護者: 現役ではないが、専門知識(IT、会計、工作など)でのスポット的な支援者。
- ・企業・団体: 活動場所、運営に必要な広場や施設の提供や、プログラムへの協賛を行う組織。

関係性人口を拡げていくことで、私たちのスカウト運動には多くの影響が生まれると考えます。運動を支えてくださる地域社会の様々な関係性を大切にして、輪をひろげて進みましょう。

「重点目標」とその「施策の方向性」を実現化するアクションプランは、県連盟・地区・団の関係性を踏まえ、3者で推進を図ります。

VI. 計画の浸透と管理方法

重点目標の実現可能性を高める県連盟の取り組みとして、3つの特別委員会の設置により運営の関係性人口を増加させ、組織の推進力を向上させます。

タスクチーム名	主な業務	目的
A I S 特別委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ A I S を指導者養成事業と分離。 ・ A I S の正しい理解と取組みの推進。 ・ 青年参画の取組強化と促進。 ・ 若手指導者のコミュニティ構築。 	各部門における青年参画を推進
社会連携特別委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知事表敬やジャンボリー等大行事での派遣団表敬訪問実施。 ・ 各市町村における菊・富士スカウト表敬訪問の促進。 ・ 企業による技能章講習の実施。 ・ 愛知県議会議員懇談会との協働防災専門チームの設置。 	行政・企業との連携による地区や4地域への支援
財政特別委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種助成金制度の調査、各団への情報展開。 ・ クラウドファンディングの実施。 ・ 維持財団の維持会員への更なるサポート依頼。 ・ 維持財団の維持会員会社への若い人材の提供（リクルート懇談会の充実）。 ・ 日本連盟維持会費の地区割り当ての管理。 ・ 維持会員への活動報告と維持管理運営。 	安定した財政基盤の強化

※維持財団:ボーイスカウト愛知県連盟維持財団



VII. 計画の浸透と管理方法

1. 第3次中期計画は県連盟・地区・団との連携を重要視しており、本計画・施策の団、及び指導者・運営者までに浸透が必須です。県連盟理事会での承認後、速やかに多方面より浸透を図ります。
2. 単年度の施策は、中期計画を前提として策定します。
3. 各施策はできる限り数値目標(管理指標)をもって策定し、その進捗程度が理事会のみならず、広く、分かりやすく、また定期的に報告できるよう努めます。
4. 施策の期中においても委員会・部門等で評価を行うと共に、意見徴集会等により多方面より情報を収集し、適宜、施策の見直しを行い、もって本計画全体の達成度を高めます。

